

序

外傷患者の診療においては大半の場合、整形外傷の合併を伴います。また骨折を含めた外傷手術は本邦の全整形外科手術の半数以上を占めるとされています。これらの事実は救急外来や研修医当直、外科系当直において、整形外傷に対する知識無しに初期対応をすることはかなり危険、もしくは困難と言っても過言ではありません。しかしながら、このように外傷診療の中で重要な位置を占める整形外傷に関して、系統的教育システムは確立されておらず、四肢や脊椎の診断、画像評価法の習得に関してもほとんどは医師個人々の努力に委ねられているのが現状と考えられます。

さらに救急医療と救命救急センターの発展によって、いわゆる「防ぎ得た外傷死」(preventable trauma death)は著しく減少しましたが、救命した患者の「防ぎ得た機能障害」(preventable trauma disability)の発生の実態とその対策はまだ未解決で、初療における適切な診断と対応の重要性は高いと言えます。本書では救急外来、救急当直、研修医当直、外科系当直などさまざまな初療の場面において、整形外傷に対する適切な判断と必要な処置を整形外科医でなくとも理解し対応できることを目的に編集企画しました。

総論では整形外科的な診察や評価法、各論では部位別に実際のケースを用いて鑑別診断やそのポイント、診察アルゴリズムを習得できるよう工夫しました。実際の臨床に携わる整形外科の若い先生方に思いを込めて執筆いただいております。大変充実した内容になりました。この場を借りてご執筆いただいた先生方に深謝の意を表するとともに、本書が初期研修医、整形外科専攻医のみならず、外科系当直など整形外傷診療の知識が必要なすべての先生方の診療の一助になりますことを祈念しております。

2022年3月

川崎医科大学運動器外傷・再建整形外科学 教授／
川崎医科大学総合医療センター整形外科 部長

野田知之